
臨也ボックス『+-0』

詩己

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

折原臨也ボックス『+ - 0』

【Nコード】

N20030

【作者名】

詩己

【あらすじ】

折原臨也は、その昔、小学生のころ、箱庭学園に入っていた。

しかし、脱走。

折原臨也の実質は、人間好きではない。

情報屋も資金提供のためだ、そんな臨也が織り成す物語。

第十五話 あ、おあがががががラバー！

小さい頃に人の目玉を食べさせられた

人が殺される瞬間を目撃した。

男の人が笑顔でこっちを見た。

テレビで見たことのある顔だった。

男の人は、ただの肉の塊となった肉片から目玉をえぐり取った。

胸倉を捕まれた。

男の人が自らの口に目玉を入れた。

…キスされた。

男の人が嚙んだ目玉とか唾液とかが口の中に入ってきた。

…舌を入れられた

気持ち悪さが増した。

決まり悪さがプラスになった。

気味悪さが気持ち悪さと合同になった

危機感が二乗された

「おいちかったかい？少年」

「おえっがはっあがっ」

吐瀉物を男の人は、楽しげに笑いながら見た。

「名前を教えてあげるよ。僕は

…久しぶりにこの夢見たな

此処に来てからトラウマが逆戻り過ぎていて辛いなあ

魚の目玉が駄目な理由を思い出しちゃったよ…

ははっ

「消えて無くなれ」

『独り言は、もっと小声のが言いと思うよっ』

「球磨川」

『いやんっ、楔って読んでよ』

「楔」

『はい、「大丈夫？」「臨也くん』

「んっ大丈夫だよ」「これくらい」の事ではひび入らないから
『そっか』

ニコニコ笑い楔

…かわいいなあ

名瀬ちゃんと並ぶくらいに

まあいいわないけど

「あっそっだ楔」

『なにっ？』

「マイナス13組行きたい」「いいよー」

というわけでマイナス13組Let's GO！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2003o/>

臨也ボックス『+0』

2011年10月6日23時56分発行